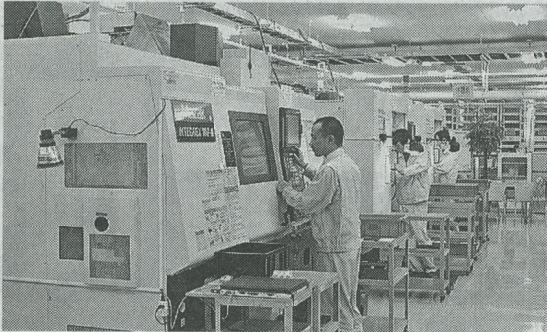




陽和は新技術の開発で医療分野での販路拡大を狙う（北九州市小倉南区）

九州の半導体関連各社

医療分野に相次ぎ参入

技術転用しやすく 安定収益狙う

九州の半導体関連メーカーが相次ぎ医療分野の事業開拓に乗り出している。医療機器は微細な加工や清浄な環境での製造が求められるため、精密加工やクリーンルームなど半導体関連の技術や設備を活用しやすい。景気の変動に左右されにくく安定した収入を見込める利点もある。九州の半導体工場の生産縮小が目立つ中、医療分野を新たな収益の柱に育てる狙いだ。

人工心臓部品や検査機

半導体製造装置のフッ素樹脂部品を手掛ける陽和（北九州市、越出理隆社長）は、フッ素樹脂の耐久性を生かし、補助人工心臓向け部品で医療分野に参入した。粘着力が弱いフッ素樹脂同士をつなぎ合わせる独自技術を生かし、人工心臓のモーターを包むフッ素樹脂のカバーを開発した。同社の売上高に占める割合は半導体関連が約3割。医療分野は1〜2%

にとどまるが、フッ素樹脂製のカテーテルなど、独自技術を活用できる製品は多いと見込む。越出社長は「医療器具は使い捨てのため生産量が見込める。新たな収益源に育てたい」とする。半導体製造装置を手掛けるピーエムティー（PMT、福岡県須恵町、京谷忠幸社長）は今秋、レーザー光で抗がん剤の効果を調べる検査機を使った受託検査事業を始める。検査機を九州大学と共同開発した。検査技術は九大から導入、同社が半導体製造装置で培ったナノ（ナは10億分の1）メートル単位の位置決め技術を応用した。

半導体製造装置向け金属部品を手掛ける三松（福岡県筑紫野市、田名部徹朗社長）は本社工場にクリーンルームを新設し、医薬品の充填・梱包ロボットや血液検査装置などの組み立て事業に参入した。現在、売上高に占める医療分野の割合は85.9%だが、3年後に20%程度とする計画だ。東芝やルネサスエレクトロニクスが生産拠点の整理・統合を発表するなど、九州の半導体産業は縮小傾向が続いている。生産量の変動が激しい半導体産業と異なり、医療分野では安定した需要が見込めることから、今後

も医療分野への参入の動きは増えそつだ。